



浜家連 ニュース5月号

第261号

2022年5月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
事務局 〒222-0035 横浜市港北区烏山町 1752 番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836

URL <http://hamakaren.jp/>

“Nothing About Us Without Us”

権利条約を背に精神医療の改革を

副理事長 大羽更明

昨年の10月からスタートした、厚労省の審議会「地域で安心して暮らせる精神保健医療福祉体制の実現に向けた検討会（以後、「地域で暮らせる検討会」）」が現在まで連続して開催されています。この検討会は、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（略称「にも包括」）の構築に関わる検討会」の後を受けて、精神障害者が（病院ではなく）地域で「安心して生活できる環境」を整えるための協議が行われています。



その背景には、2014年1月に批准され、2月に発効した国連の「障害者権利条約」の批准後の国連による審査があるようです。日本については発効後2年以内に、それ以降は少なくとも4年ごとに障害者権利委員会に政府報告を作成・提出して、パブリックコメント実施、障害当事者や支援事業者からのパラレルレポートの提出などさまざまな手続きを経た後、今年の夏に正式な審査結果が示されることになっています。

一方、令和2年1月の「厚労省病院報告」によれば、世界の人口の2%弱しかいない日本に精神科病床の20%が集中していること、つまり世界の精神障害者用の入院ベッドの5分の1が日本の精神科病院の中にあること、日本の精神科病院の平均在院日数は283日で他のほとんどの国で50日以内であるのに比べて突出して長いこと、また日本の精神科病棟での医療従事者の配置が一般病棟にくらべて、医師は3分の1、看護師・准看護師は3分の2でよいという精神科特例が認められていて極端に少ないこと（急性期病棟は最近ようやく一般病棟と同等な配置になりましたが）、精神科入院病棟での隔離や拘束数が日本で世界一多いこと、などなど日本では驚くべき貧弱な医療が実施されていることを示しています。

国連による権利条約批准後の審査でこのような実態が指摘されれば、その改善勧告が出ることは十分予測され、国際的な批判の対象になることはあきらかです。

「地域で暮らせる検討会」の中では、入院制度の在り方、患者意思決定支援、退院後支援など、これまで課題とされてきた多くの事項について、精神障害者が安心して暮らせる地域生活支援を考える観点からさまざまな立場の構成委員の意見が求められています。その中には障害当事者や家族も含まれています。

議事録を見ると、協議は論点の整理からはじまり、これまでに出示された意見の記述、そして最後に検討の方向性をまとめるという形で進められています。中でも、「医療保護入院」については、丁寧な意見の聞き取りと、単純には判断できない検討事項の深い分析など、時間の制約のために普通の審議会では突っ込めない議論を積み重ねていることが読み取れます。

みんなねっと理事長岡田久実子さんの発言です。“最後に医療保護入院については、なぜ家族等の同意が必要なのかという根本的な疑問が家族会の中でいつも話題になっております。入院の必要のありなしはやはり医療的な観点から決められるべきで、そこに家族等の同意がなぜ必要なのかという明確な理由を理解できている家族はほとんどおりません。医療保護入院制度自体は日本独自の制度というふうに聞いておりますので、諸外国ではこのような制度がない中で、どのようにして必要な人に医療提供がなされているのかということをしちんと調査研究する必要があるのではないかと。そして、できれば医療保護入院制度がない中で、きちんと医療につながって支援体制の中に組み込まれて、地域生活がきちんと継続できるような、そういう仕組みを目指したいというふうに私どもは考えております。”

※「医療保護入院」に関する検討会の内容を来月6月号に掲載します。お楽しみに！

浜家連の動き



《2021年度単会会長交流会が開催されました。》

昨年、一昨年とコロナウイルス感染防止のために行なわれませんでした単会会長交流会が、3年ぶりに開催されました。

日時 2022年 3月17日(木) 13:00~18:00

場所 横浜ラポール3階 ラポール座及び会議室2

参加対象 単会会長 参加者 16名

全体説明の後、3つのグループに分かれ、前半は各単会から提出された「2021年活動報告」をもとに、後半は自由なテーマでディスカッションが行なわれました。最後に各グループからディスカッションの内容について発表がありました。



●アンケートの結果から

- ① 今日の内容が参考になった12名(75.0%)、次回も開催してほしい14名(87.5%)との回答がありました。
- ② 本日、最も印象に残ったことは何ですか？
 - ・当事者、家族、社会それぞれが何らかの偏見がある。これをどのように解消させたらよいか、皆さんと話げできた。
 - ・各単会の年会費の違い。
 - ・精神医療への信頼性が乏しいという現実を単会会長全員が感じている。
 - ・各単会における問題を、腹藏なく話してくれたことです。
 - ・コロナ禍でも各単会が工夫してやっている事。
 - ・グループ分けして人数が少なかったため、いろいろ話し合いができた。

・ボランティア活動が取り上げられ、それが地域の人達を巻き込んで精神障害のことも知ってもらえる場にもなっている。

③ どんなテーマを取り上げてほしいですか？

- ・「会員増加策」にしぼって
- ・魅力ある家族会にするにはどうするか。
- ・80-50問題の具体的解決策（具体例）
- ・魅力ある家族会にするにはどうするか。
- ・家族教室でいままで、とても良かった講師を教えてください。

④ 上記に関わらずご意見をどうぞお書きください。

- ・会員の増加のためにどのようにするか、精神の親の会があることの認識を広める。
- ・当事者が亡くなっても会員として助言者（賛助会員）として会に残り、会のあり方、存続に力をそそいで下さる方がほしい。
- ・代理として会長会には2~3回参加させていただきましたが、理事会、常任理事会で話し合う時間を作れば良いのではないかと感じています。
- ・政府への要望に力を入れて頂きたいと思います。

②~③の項目については一部抜粋して掲載しました。

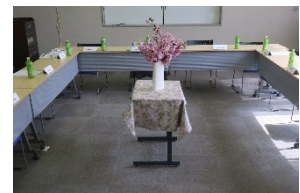
浜家連の永遠のテーマ「**会員の減少を防ぐには**」「**役員・会員の高齢化**」についても、多く語られていました。

2021 年度家族による家族学習会の報告が届いています。

浜家連主催「2021 年度家族による家族学習会」が終了しました。

家族学習会実行委員長 稲垣 宇一郎

2021年度の家族による家族学習会（以下家族学習会）は新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら、当初予定日延期を経て、3月6日（日）にスタートし、最終回の第5回が期を跨ぎましたが4月10日（日）、無事ゴールを果たしました。



参加者は10名、浜家連主催という事もあり、横浜市18区の内7区から、お隣の川崎市からのご参加もあり、広くお集まりいただきました。

お迎えする側は家族学習会実行委員会メンバー及び担当者研修会in横浜修了者がアドバイザーと担当者を担いました。

そしてオブザーバーとして2名、福祉教育の専門学校で教鞭をとられる方と将来福祉関係で働く事を目標とされる学生さんが複数回参観されました。

●家族学習会がどのような雰囲気であったかの一端をご紹介します。

最初は参加者の皆様は勿論、私たちお迎えする側も緊張して集まりました。

会場は浜家連事務所がある横浜ラポール3階の会議室でした。

入口は廊下に面しております。コロナが未だ油断はできませんので、換気の為ドアを開放して学習会を実施しておりました。

学習会の各回開催日が日曜でしたがそれでも廊下からの他人の声は入ってきましたので、そのような時にはドアは閉めて対応しておりました。

回が進むにつれて参加者及び担当者一体となった話し声、更にはなんと笑い声迄加わって参りました。そのような時には逆に廊下側の方に配慮してドアをそっと閉めるように致しました。

どうしても深刻な話になりがちですが、自然に笑い声が沸き上がる場面は私としては初めての経験でした。その時、遠慮なく話せる場ができたのだと実感致しました。

担当者一同にとっても力を頂いた家族学習会でした。

◆参加者の方々から頂いたご感想の一部をご紹介します。◆

- ・気持ちが楽になりました。
- ・焦らず、じっくり見守ることが大切だと学びました。
- ・こんな出会いをさせてもらえた家族に感謝です。
- ・抱え込んでいたことを出して心の重荷を下ろすような気持ちになれた。
- ・自分だけで苦しんでいたことが、皆さんの話を聞いて救われました。
- ・コロナ禍で会って話せるチャンスが無かった。その機会に出会えた事に感謝



§ イベント情報 §

◆NPO法人 浜家連 第14回通常総会◆

日時：2022年5月27日（金）13:00～15:00

会場：横浜ラポール2階大会議室

【議案】

- ①2021年度事業報告（案）及び収支決算（案）について
- ②2021年度会計監査について
- ③2022年度事業計画（案）及び収支予算（案）について
- ④役員を選出について

【編集後記】 朝、バスや電車で座って居眠りしながらの通勤が気持ちよかったのですが、この頃座れなくなってきました。混雑状況はだんだんとコロナ前の状況に戻りつつありのように感じます。コロナ感染への警戒感が薄れたのか、恐怖心がそれ程でもなくなったのか、最近のテレビなどでのマスコミの報道ではウクライナ情勢が主となって、コロナの報道は分量が少なくなっています。これらの影響もあるかも知れません。

5月連休で「感染者拡大！」とならないことを願っていますが、この浜家連ニュースが皆様のお手元に届く頃はどうなっているのでしょうか。

1日も早くマスクのない生活を送れる日がくることを願っています。

（事務局 中居）